
前にネマトリン粒剤も散布した。宮崎県串間市大塚では59年（1984）から、青果用ウィルス無病苗を確保するために無病種蒔の利用を始めた。当時は3年更新とした。なお40年頃から種蒔の温湯消毒は行われなくなった。（安楽隆宣『南九州・ハウス栽培』、中間洋生『南九州・マルチ早掘栽培』、上妻道紀『南九州・澱原用多収栽培』、中馬克己『主要畑作地帯のアンケート』）

3. 西部及び中部九州地方

長崎県では、3月中～4月中旬に蒔伏せする露地育苗が多かった。温床利用の芽出し育苗も行われた。30年頃からの露地ビニール育苗が行われたが、苗床面にマルチだけの方法も行われた。早掘栽培では2月上旬～3月

下旬に蒔伏せする温床育苗を行った。さらに黒斑病対策としての温湯消毒は、40年以降には土壌消毒の実施により見られなくなった。

熊本県の普通栽培では3月上～下旬に無加温のハウス内にビニール育苗で行われた。天草地方では、普通栽培の蒔伏せは4月中～5月上旬で、露地ビニール育苗が主であった。早掘栽培の蒔伏せは2月上～中旬で、ハウス内や踏み温床で育苗した。（戦後農業技術発達史畑作編九州地方、中馬克己『長崎における甘蒔栽培の実態、福江島の調査』、鶴内孝之『風土を生かした離島（福江市）での安定切干し生産』、中馬克己『主要畑作地帯のアンケート』）

（つづく）

* * *

ジャガイモと映画『エイプリルの七面鳥』

「多分この映画にはジャガイモに関係したシーンが出てくる」と期待して出かけ、その予想が当たるものと外れるものがあります。表題のものは前者に相当し、ソ連も絡んだ『ひまわり』などは後者でした。

『エイプリルの七面鳥』は、ニューヨークに住む娘が、感謝祭の日、郊外に住む両親、祖母、弟妹を招く話。郊外から向かう車でガンをもつ母などが絡んだトラブルと、初めて一家を迎える娘エイプリル（ケイティ・ホームズ）が七面鳥を焼こうと散々努力する過程を描いていました。

余命いくばくもない母親のため初めて七面鳥のローストを作ろうとするがオープンが故障。アパートの見知らぬ人を頼りに駆け巡るハメになるため思わぬハプニングが続きます。その際マッシュポテト、ポテトピーラ、生いもを上から押して方形に切断する器具が彼女の不慣れな扱いのもとに出てきます。脚本家ピーター・ヘッジスの監督デビュー作、神経質な母親役のパトリシア・クラークソンも好演して、アメリカ市民の幸福願望と、その実現のための深刻なハプニングを見せていました。

（いも類研究会顧問・浅間和夫）